

キクバドコロ *Dioscorea septemloba* Thunb.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。山地性の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生のつる性草本。地下茎は太く横にはう。茎は長く伸び、無毛である。葉は互生し、長さ 5～10cm の柄があり、葉身は卵心形で掌状に 5～9 裂し、長さ 10～18cm、幅 8～15cm、裂片の先端は鋭尖頭である。葉柄の基部には小突起がなく、葉は乾くと黒変する。花期は 6～7 月、雌雄異株で、雄花序は分枝し、雄花はまばらについて無柄、花被片は 6 枚で黄緑色、披針形で平開する。雌花序は穂状、雌花にも柄がない。果実は蒴果で、3 翼がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 82104, 2007-8-26)、3 東栄 (小林 34244, 1990-7-9)、7 設楽東部 (小林 53362, 1994-8-29)、8 鳳来北東部 (小林 64469, 1998-7-5)、11 作手 (小林 53956, 1994-9-18)。西：28 額田 (小林 52446, 1994-7-2)。2 豊根にもあるという (小林 2006)。ただし一部の区画では、すでに絶滅している可能性がある。

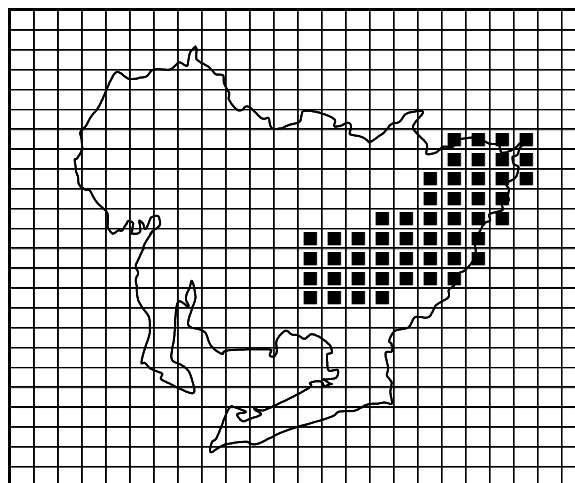
【国内の分布】

本州 (東北地方南部以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁などに生育する。愛知県ではヒノキ造林地内に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河の山地に点在するが、個体数は少ない。林内の光条件の悪化で、衰退している場所が多い。ニホンジカによる食害の影響も大きい。西三河では 1 カ所で確認されているだけである。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

モミジドコロとも呼ばれる。葉が掌状に切れ込む日本産ヤマノイモ属植物の中では、切れ込みが最も深い。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.218. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.84, 平草本 I p.58, 平新版 1 p.150.